

「海女サミット 2017in 鳥羽」

実績報告書



日時：平成 29 年 10 月 27 日（金）・28 日（土）

場所：タラサ志摩ホテル&リゾート・鳥羽市立海の博物館

主催：海女振興協議会

海女サミット 2017in 鳥羽

<大会スローガン>

～輝く海女のパワー！世界遺産を目指して～

全体概要

【目的】

伊勢志摩地域は、海女さんの操業者数が日本で一番多い地域であり、平成 29 年 3 月には、国重要無形民俗文化財の指定や、日本農業遺産の認定を受けるなど、海女に対する注目はこれまで以上に向上してきていると感じています。

しかし、漁獲量の減少や高齢化などにより、海女の数には年々減少傾向にあるだけでなく、後継者不足も否めない状況が伺われます。

このような中、海女振興協議会では、海女漁業の振興や海女文化の保存・継承、更にはユネスコ無形文化遺産登録に向けた取り組みを進めることを目的に、「海女サミット 2017in 鳥羽」を開催しました。

本サミットでは、シンポジウムの共通テーマを「海女は観光をリードする！」をテーマに、海女小屋体験や、海女さんが獲ってくるアワビやサザエといった魚介類が人気となっている中、海女さんの観光面での活躍にスポットを当て、新たな魅力発見につなげていくため、「海女」と「観光」の関係性とは何かを、様々な切り口から考えてみました。

【スケジュール】

◆ 1 日目：10 月 27 日（金）

○アワビ稚貝記念放流《鳥羽市浦村町白浜》

・ 11:00～／地元海女さんによる記念放流

○記念シンポジウム《タラサ志摩ホテル&リゾート》

・ 13:30～／開会あいさつ

・ 13:45～／記念講演

①演題「昭和の銀幕に映る<海女>」

講師：東京海洋大学 准教授 小暮修三 氏

②演題「海女の浮世絵」

講師：鳥羽市立海の博物館 学芸員 縣拓也 氏

③演題：「韓国 of 海女観光」

講師：東義大学 教授 劉亨淑 氏

④演題：「海女とともに」

講師：久慈市観光交流課 課長 夕向司 氏

・ 16:00～／トークセッション／テーマ：「海女は観光をリードする」

(コーディネーター)

三重大学 教授 塚本明 氏

(ゲストスピーカー)

東京海洋大学 准教授 小暮修三 氏

鳥羽市立海の博物館 学芸員 縣拓也 氏

東義大学 教授 劉亨淑 氏

久慈市観光交流課 課長 夕向司 氏

鳥羽市観光協会 専務理事 世古晃文 氏

○海女さん大交流会

・ 18:30～／サミット参加海女さんによる交流会

◆ 2 日目：10 月 28 日 (土)

○記念講演《鳥羽市立海の博物館》

・ 9:45～／開会あいさつ

・ 10:00～／記念講演

演題「海女をユネスコ無形文化遺産へ

～海女という生き方をめぐって～」

講師：成城大学 教授 小島孝夫 氏

・ 11:00～／昼まで大討論「海女は世界遺産をどうやって目指すのか!？」

サミット参加海女さんによるトークセッション

・ 12:00～／大会宣言

里海を創る海女の会 会長 橋本加津代 氏

・ 12:10～／輝く海女さんの休日～ランチタイムでおもてなし～

「ありがとう」「これからもよろしく」の気持ちを込めて、全国の海女さんたちと一緒にランチを食べて、サミットを終了。

【主催】

海女振興協議会

【協力】

鳥羽市立海の博物館、タラサ志摩ホテル&リゾート

【後援】

三重県、三重県教育委員会、鳥羽市、志摩市、鳥羽市教育委員会、志摩市教育委員会、鳥羽磯部漁業協同組合、三重外湾漁業協同組合、鳥羽市観光協会、志摩市観光協会、鳥羽商工会議所、志摩市商工会、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会

【参加者実績】

○シンポジウム 150人 ○交流会 150人 ○サミット 160人
※県外海女 16人／県内海女 95人／韓国海女 11人 (合計：122人)

<参加海女の地域>

岩手県(久慈市)、石川県(輪島市)、福井県(坂井市)
和歌山県(西牟婁郡)、徳島県(海部郡)、京都府(舞鶴市)
鳥取県(鳥取市)、山口県(長門市)、長崎県(壱岐市)
三重県(鳥羽市・志摩市)、韓国(釜山市)

全国海女サミット2017 in 鳥羽

10月27日(金) 四日船酒 タラサ志摩ホテル&リゾート

11:00～ アフジ精貝記念投流
13:30～ 開会
13:45～ 記念シンポジウム～海女は観光をリードする～
海女さんならではの活躍の力を知って、観光にも貢献してあげたいです。
「海女」と「観光」の関係とは何か、海女を知り口から伝えてみるませんか？
「昭和の観音に映る(海女)」 東京海洋大学 海産物学 藤原三夫 氏
「海女の歴史」 海産物学 藤原三夫 氏
「海女の観光海女」 海女さん 藤原三夫 氏
「女性の海女観光の取り組み」 水産庁観光課 藤原三夫 氏 他

18:30～ 海女さん大交流会

10月28日(土) 四日船酒 海の博物館

9:45～ 開会
10:00～ 記念講演「海女をユネスコ無形文化遺産へ」 海女さん 藤原三夫 氏
11:00～ 昼まで大討論！「海女は世界遺産をどうやって目指すのか？」
世界唯一の海女さんが集まるサミットで大討論を行います。参加されていること、自分たちの持っていること、もっと広げてほしいことなど、一緒にセッションしましょう。

12:00～ 大食会
12:10～ 輝く海女さんの休日～ランチタイムでおもてなし～

海女さんの行われている地域 岩手・宮城・千葉・静岡・三重・岐阜・徳島・福岡・山口・徳島・高松・山口・香川・岡山・広島・福岡・佐賀・熊本・鹿児島・沖縄

【主催】海女振興協議会
【後援】三重県、三重県教育委員会、鳥羽市、志摩市、鳥羽市教育委員会、志摩市教育委員会、鳥羽磯部漁業協同組合、三重外湾漁業協同組合、鳥羽市観光協会、志摩市観光協会、鳥羽商工会議所、志摩市商工会、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会
【協力】タラサ志摩ホテル&リゾート
【お問い合わせ先】海女振興協議会(鳥羽市立海の博物館) TEL.0599-25-1167 FAX.0599-25-2610 E-mail:sumari@city.toba.lg.jp

○ 1 日 目 / 10 月 27 日 (金) 浦 村 町 白 浜

海女サミット恒例となったアワビ稚貝の記念放流を、浦村町にある白浜を会場に行ないました。当日は、石鏡町の海女さんの他、ゲスト海女として京都府、岩手県の海女さんに参加していただきました。来賓の中村欣一郎鳥羽市長や竹内千尋志摩市長、永富洋一鳥羽磯部漁業協同組合代表理事組合長などからメガイアワビの稚貝を受取り、約 20 分かけて 2,000 個の稚貝を放流しました。



< 来賓から稚貝を受け取る海女 >



< 参加海女との記念撮影 >

○ 1 日 目 / 10 月 27 日 (金) タラサ志摩ホテル&リゾート

海女サミット 1 日目は、タラサ志摩ホテル&リゾートを会場に、「海女は観光をリードする」をテーマとした記念シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、東京海洋大学の小暮修三准教授、海の博物館の縣拓也学芸員、韓国東義大学の劉亨淑教授、久慈市観光交流課の夕向司課長による記念講演の他、三重大大学の塚本明教授をコーディネーターとしてトークセッションが行われ、記念シンポジウムに登壇いただいた講師陣の他、鳥羽市観光協会の世古晃文専務理事を加え、「海女と観光」の関係性について興味あるセッションとなりました。

◆ 主催者挨拶

海女振興協議会副会長 藤原隆仁



はじめに、海女振興協議会副会長の藤原隆仁（鳥羽磯部漁業協同組合常務理事）から、サミット開会にあたっての主催者挨拶を行いました。挨拶では、海女小屋体験等が人気を博している中、海女を新たな切り口で一緒に考えるサミットにしたいと述べさせていただきました。

◆顧問挨拶

・鳥羽市長 中村欣一郎 様

・志摩市長 竹内千尋 様



◆記念講演

- ・演題：「昭和の銀幕に映る〈海女〉」
- ・講師：東京海洋大学 准教授 小暮修三氏

小暮准教授からは、海女をテーマにした映画の歴史を振り返りながら、海女が過去からビジュアル的な視点で発信されてきたことについてお話いただきました。

- ・演題：「海女の浮世絵」
- ・講師：鳥羽市立海の博物館 学芸員 縣拓也氏



縣学芸員からは、海女が江戸時代の浮世絵に多数登場する姿を紹介しながら、芸術的な視点で発信されていたことについてお話いただきました。

- ・演題：「韓国のお海女観光」
- ・講師：東義大学 教授 劉亨淑氏



劉教授からは、韓国における海女と観光の関係性について、海女が観光分野にどのように貢献しているのかをお話いただきました。

- ・ 演題：「海女とともに」
- ・ 講師：久慈市観光交流課 課長 夕向司氏



夕向課長からは、ドラマ「あまちゃん」の舞台になった久慈市における観光海女の取り組みについてお話いただきました。また、実際に観光海女として活動している海女の皆さんも登壇し、自らの活動をPRしていただきました。

◆トークセッション

○テーマ

「海女は観光をリードする」

○コーディネーター

・ 三重大学教授／塚本明氏

○スピーカー

- ・ 東京海洋大学准教授／小暮修三氏
- ・ 鳥羽市立海の博物館学芸員／縣拓也氏
- ・ 東義大学教授／劉亨淑氏
- ・ 久慈市観光交流課課長／夕向司氏
- ・ 鳥羽市観光協会専務理事／世古晃文氏



トークセッションでは、海女が観光分野で活躍していくために、どのようなことが課題になっているのか、また、どういった面を活かしていくことができるのか等について、ゲストスピーカーによるセッションが行われました。

前段の記念講演を踏まえて、ゲストスピーカーからは海女と観光の関係性について、それぞれの専門的な視点から前向きな話を聞くことができました。トークセッションから参加いただいた、鳥羽市観光協会の世古専務は、鳥羽市が取り組んでいる「漁業と観光の連携事業」についても紹介いただき、それぞれの分野が連携していくことで、地域の魅力向上につながるとの提案がありました。

◆海女さん大交流会

1日目の夜には、全国の海女さんをメインとした交流会を開催しました。毎回この交流会を楽しみにしている海女さんも多く、海女同士の交流を更に深めることができました。



<全国の海女さんが交流を深める>



<現役海女アイドルとばあば>

○2日目／10月28日（土）鳥羽市立海の博物館

2日目は、鳥羽市立海の博物館へ会場を移し、来賓の鈴木英敬三重県知事にご挨拶をいただいた後、記念講演と全国の海女が参加する討論会を行ないました。

◆来賓あいさつ

- ・三重県知事 鈴木英敬 様



鈴木英敬三重県知事からは、鳥羽志摩の海女漁が国重要無形民俗文化財指定や、日本農業遺産認定を受けたことに触れ、ユネスコ登録に向けてみんなで頑張っていきましょうと激励いただきました。

◆記念講演

- ・演題：「海女をユネスコ無形文化遺産へ～海女という生き方をめぐって～」
- ・講師：成城大学 教授 小島孝夫 氏

全国各地の海女漁業集落の調査研究をされている小島教授からは、その土地ならではの漁の仕方や生活、風習などの紹介があった他、無形文化遺産は人が中心になることに触れ、自分たちの漁場を自分たちで守り、これからも海女さんがどのような生き方をしていくかが大事であるとの提案をいただきました。

◆トークセッション

昼まで大討論！「海女は世界遺産をどうやってめざすのか！？」

トークセッションでは、サミットに参加した全国の海女さんにご登壇いただき、海女と観光の融合や、世界遺産登録に向けた取り組み、各地域が抱える課題などについて討論されました。

和気あいあいとした中でのセッションでは、「海女は元気の源であり、健康のためにもあと10年は頑張りたい」とう想いや、サミットから実現した「漁具（ウェットスーツ等）の補助支援」等の拡大に向けた希望、「全国の皆さんに支えられてやってこれている」といった感謝の気持ちなどが発表されました。

また、韓国釜山市から参加いただいた海女さんは、海が荒れていなければ雨の日でも潜ると話し、海女漁に対する熱意をうかがい知ることができた他、韓国の行政的な支援にも触れ、海女漁を後世に残していくためには、多くの人たちの援助ももらいながら、自分たちの仕事に誇りを持つことが大事と話してくれました。



◆大会宣言

2日間に渡って開催された海女サミットの最後には、里海を創る海女の会の橋本加津代会長が「ここに集まったすべての海女は、自然環境を守り、アワビを始めとした資源の増殖を図り、伝統ある海女文化を守り、将来に渡って継承させていくこと、そして、海女漁のそのものを活性化させていくことに力を合わせて進もう」と大会宣言を読み上げました。この大会宣言は、満場の拍手で採択され、「海女サミット 2017 in 鳥羽」を終了することができました。



○報道実績

<10月28日>

- (毎日新聞)「観光」テーマに意見交換鳥羽海女サミット開幕きょうまで
- (読売新聞)日韓海女さん120人集結鳥羽でサミット稚貝放流やシンポ
- (朝日新聞)日韓の海女が集合観光テーマに討論鳥羽でサミット開幕
- (中日新聞)海女漁と観光考える鳥羽で全国サミット開幕
- (日本経済新聞)日韓の海女122人集合三重・鳥羽で「サミット」
- (伊勢新聞)海女を観光に生かそう鳥羽でサミット開幕記念シンポアワビ放流も
- (共同通信)「海女サミット」日韓から122人が参加

<10月29日>

- (読売新聞)「海女漁をユネスコ遺産に」鳥羽のサミット閉幕
- (中日新聞)日韓の海女ら交流深め鳥羽・サミットが閉幕

※新聞社のみ一部抜粋